

[第 159 回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

2025 年 2 月



主 催 NPO法人高島藤樹会

- 日 時 2025 年 3 月 1 日 (土) 15時～17 時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 熊沢蕃山著・伊東多三郎現代文訳『集義和書』(中央公論社)p.211～
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)

2025 年 2 月 1 日(土)、安曇川公民館で第 158 回藤樹人間学塾を開きました。寒い中、京都から1名、大津から 4 名を入れて 9 名(うち女性 4 名)の参加でした。初参加 3 名。

■ テキスト

『中江藤樹・熊沢蕃山』(中公バックス日本名著)

■ テキストの見出し

「集義和書」書簡の 3 性と心と気、死後の心、政と才と学、学問の心がけ、を輪読し、説明しました。

■ 配布資料

(1)「まなざし 477 号」、(2)性即理と心即理(ウィキペディア)(3)『山崎弁栄 光明主義講話』宗教の意義等。

■ 今日のポイント

- ・ 今回は初参加者が 3 名あったので、中江藤樹の「孝」の思想を、大きな図を使って説明しました。そして、本文は難しいので内容をかみ砕いて図示して説明しました。
- ・ 性と心と気…朱子は、絶対の世界である太虚(理=大宇宙)が目に見える相対の世界(気)に万物を存在させているが、理と気は二元であるとする。一方王陽明は、人間は(大宇宙の分身であるので)生まれた時から心と理(体)は一体であり、心が後から付け加えられたものではないとする。蕃山は両者の説を併取して理気混融説である。
- ・ 死後の心…太虚のはたらきで人間の理性と肉体が生ずるが、理性は肉体に使われるために生じたのではない、肉体が死ぬために死ぬものでもない。悪人の心は、生前から人間の性の道理を知らないから死後を待てない(不安である)。君子の心は、生前から肉体と容色に使われず、死と生を二つのものとしないので、死後を待つことはない(生死にこだわらないので安心である)。(以下略)

■ フリートーキング

- ・ 「初参加して中江藤樹先生の「孝」の思想を教えてもらってよかった」
- ・ 「初参加。忠臣蔵が好きでその思想を訪ねると中江藤樹→熊沢蕃山→山鹿素行→大石蔵之助とつながっていることが分かった。今日はその中江藤樹、熊沢蕃山のことが学べてよかった」
- ・ 「今日のところは難しく理解しづらいが、いろいろな資料を提供してもらったので感謝している。復習する」

の意見をいただきました。ありがとうございます。

皆で学ぶと議論が深まります。学ぶは愉し！難しいところも資料を用意して分かりやすく解説します。人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。

